

2020年度新型コロナウイルス対応緊急支援助成 資金分配団体公募 採択事業

事業名 主題	子どもの居場所づくり応援事業
事業名 副題	活動助成による「食」のインフラ整備支援
対象地域	全国
団体名	一般社団法人全国食支援活動協力会
代表者名	代表理事 石田 惇子
解決すべき社会課題	1) 子ども及び若者の支援に係る活動；①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子供の支援；②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
事業の概要	こども食堂等子どもの居場所の運営団体へネットワーク活動・中間支援を行う団体を対象に、子どもの居場所づくりにおけるインフラ整備を目的とした助成を行う。特にコロナ禍においては、生活を支える「食」の確保が優先課題であるが、開催中止を余儀なくされ、利用者負担金が無いままに、自主的に代替となる活動を続けている。子どもの居場所運営団体が食材・食品等を容易に得られる環境を整えることで、子どもたちに多様な食に触れてもらう食支援活動を継続的に実施できることをねらいとする。
事業期間	1年
助成額（円）	50,000,000

審査コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども食堂を支える中間的支援組織のハード設置支援を行うことで、子ども食堂活動の継続を意図している点は他の子ども食堂の取り組みと一線を画していると考えます。 ・ 課題設定から解決策まで、コロナ禍で必要な冷蔵設備の整備など、今必要なことから将来に向けて必要なことまで視野に盛り込まれている点、ハブとなる団体を通じてレバレッジを狙っていく構造は評価できます。 ・ 地域の中での、食品メーカーや小売業者との協働にもチャレンジしてほしいと思います。食品を管理する点で専門家の視点を得ることができると考えます。 ・ 評価指標の数字は、実態に即して判断というのではなく何かしらの設定が必要ではないかと考えます。 ・ 既存事業の進捗を優先させ、資源を分散させないことで、一つ一つの取り組みに意味を持たせることにも留意していただきたいと考えます。 ・ 50団体で最大1,000万円と事業規模も大きいですが、実行体制としては実質3名（うち1名は統括）で本当にやりきれぬのかは不安が残ります。当該団体の事業実施体制に見合った助成金額への見直しなどが必要と考えます。
--------	--

※審査コメントは、審査時点（2020年7月初旬）に作成されたものです。

※事業情報は、審査コメントを受けた事業の見直しを反映した契約時点（2020年9月下旬）のものです。